

平成23年真夏（7月）号

発行：三重耳鼻咽喉科 荘司邦夫・坂井田麻祐子

津市観音寺町 445-15

Tel:059-228-0100 Fax:059-228-0133

ホームページ：<http://www.miejibika.com/>

携帯サイト：<http://www.miejibika.com/i/>

### <お豆はどうして危ないの？>

先日、ある幼稚園で講演依頼があり、「お豆はどうして危ないの？」という演題で、幼稚園の保護者の方々に対して講演会を行いました。

実は、乳幼児（0～6歳まで）のお子さんに、豆まき的大豆やピーナッツ、アーモンドなどのいわゆる「乾燥豆類」を食べさせるということは、大変危険なことなのです。その危険性をお知らせするための講演会でした。

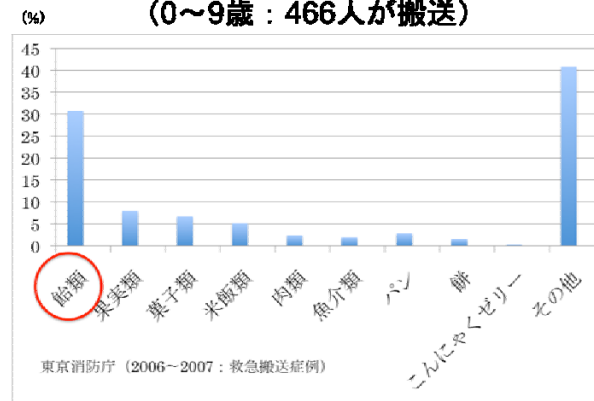
乾燥した豆は、小さくて丸くて硬いため、口から何かの拍子に間違っ  
て吸い込んでしまうことがあります。空気の通り道に入るので、「気  
道異物」と呼びます。特に、0歳から2歳までの子どもたちに多い事  
故で、原因の8割がピーナッツなどの豆類です。このくらいの年齢の  
子どもたちは、食べることがまだ不器用ですし、万が一気管の方へ入  
ってしまった場合も、咳出す力が弱いので、奥へ入ってしまいます。  
気管支まで入ってしまうと、全身麻酔で摘出術を行わないといけませ  
ん。息の通り道ですから、命に関わることもあり、そういった意味で  
乾燥豆類は大変危険な訳です。3歳以上の子どもたちでも、口いっば  
いに詰め込んだり、笑いながら、はしゃぎながら、歩きながらなど、  
ふざけて食べていると事故につながります。事故を防ぐには、我々周



りの大人が注意して、豆類を家に置かず、与えないようにするしかあ  
りません。気をつけて頂ければと思います。

危ない食べ物は、豆類だけではありません。もう少し大きなものであ  
れば、のどにすっぽりはまって窒息するリスクがあります。一時期、  
こんにやくゼリーによる窒息事故がニュースになり、こんにやく粉末  
の含有量を減らす、カップの形状を変える、冷蔵・冷凍禁止や幼児・  
高齢者禁止のパッケージにする等、色々と大騒ぎになりました。しか  
し調べてみると、こんにやくゼリーでの窒息例はほんのわずか、こど  
もの窒息事故のダントツ1位は「アメ類」です。東京消防庁が調査し  
たある年のデータでは、こんにやくゼリーの窒息例は1例でしたが、  
飴類は143例でした。

窒息しやすい食べ物ランキング  
(0～9歳：466人が搬送)



アメは、子どもに与えやすく、時間が稼げて、持ち運びもしやすいの  
で、よく大人が与えがちなようです。しかし、万が一、息の通り道に  
コッポリはまり、息ができなくなったら、子どもの命はたった5分で  
帰らぬものとなります。救急車が来てからでは遅いため、周りの大人  
がなんとかしなくてははいけません。救急蘇生法も無くはないですが  
(背中を叩くなど)、みるみる間に容態が悪化する自分の子どもに、  
冷静に処置を施すのは容易なことではないと思います。事故当時に大

人が周りにいるとも限りません。普段から、喉に詰まる可能性のある食べ物は、極力食べさせない様にしましょう。ミニトマト、キャンディチーズなども窒息事故例のある食べ物です。パンを口いっぱい詰めて込んで窒息死した小中学生の例も記憶に新しいところです。

子供は、まわりの大人が「これは危ないから食べない様にね」「のどに詰まるとすごく苦しくなるからね」と、どうして危険なのかを真剣に説明してやると、よく理解してくれるものです。次第に、子供の方から「このお菓子は豆が入るとるからやめとこう」「これは硬いし丸いから、のどにつまるよ」「慌てて食べたら危ないよ」など、危険を認識し、知らせてくれるようになります。こうして、自らを危険から守ることが出来る様になるのだと思います。

子供だけではなく、高齢者では、米類や餅が窒息事故件数として多くなっています。筋力の低下、老化などに伴い、噛む力、飲み込む力、誤嚥した時の咳出す力が弱くなっていくためです。一口を小さくすること、よく噛んでから飲み込むこと、噛み切りにくい食材は避けること、食べる時は会話やテレビをやめ、食べることに集中することなどの注意が必要になってきます。

生きるために必要不可欠な「食べ物」で起こりうる、のどの危険な事故のこと、この夏、一度ご家族で話し合ってみてはいかがでしょうか。

### <こどもの反復性中耳炎に漢方薬を使っています>

2歳未満の保育園児は、急性中耳炎にかかりやすいと言われています。年齢が低いので免疫力が弱い上に、保育園という、ウイルスや細菌の宝庫の様なところで長時間過ごすため、風邪を引きやすく、鼻汁が長引き、中耳炎になりやすくなります。特に、半年以内に3回以上繰り返す人の場合、「反復性中耳炎」と呼びます。治ってもすぐに中耳炎で熱が出ます。一般的に効果のある治療法と言われているのが、「鼓膜チューブ挿入術」という方法です。両側の鼓膜を切開し、小さなチューブを挿入します。鼓膜の奥にある部屋（中耳）へきれいな空気を

入れてやることで、細菌の繁殖を抑え、中耳炎にかかりにくくします。特に大きな後遺症もなく、中耳炎を繰り返すよりは手術を受けた方がメリットはあります。ただ、入院が必要なため（2、3日）、共働きのご両親には選択しにくい治療法であるとも言えます。

当院では、「十全大補湯」という漢方治療を行っています。これは、免疫力を向上させる作用のあるお薬で、続けて内服することで、中耳炎の発症を抑えられます。1ヶ月に2、3回の中耳炎を繰り返していたお子さんも、内服中は全く中耳炎にかからなくなったり、かかっても軽く済んだり、熱が出にくくなったりする効果があります。3ヶ月ほど内服を続けますので、嫌がらずに飲ませる工夫が必要です。今まで頑張ってくださったお母さん達のアイデアでは、コンデンスミルクやココアパウダー、チョコレートシロップ、イチゴジャム、リンゴジュース（100%）、ヨーグルトなどに混ぜるとよいそうです。おいを気にするお子さんの場合は、ジュースに混ぜた後にレンジで温めてから与えると、においが飛んで飲みやすくなるということです。

治療を終了しても、半年くらい効果が持続すると言ってくれる親御さんが多いのですが、子供さんによっては、やめたとたんに中耳炎になることもあります。その場合は、もう一度内服を再開して頂くこともあります。

中耳炎は、子供が大きく、強くなれば、自然に治る病気です。大きくなるまでの、いわば「時間稼ぎ」のために、どのような治療を選択するか・・・抗生剤や手術を駆使して「治す」治療もありますが、漢方で自然治癒力を高め、治るのを「待つ」という治療もよいのではないかと考えています。親御さんと相談しながら、お子さんにとって最善の治療法を一緒に考えていきたいと思っています。

（文責：坂井田麻祐子）